

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	和歌山市芸術創造発信フェスティバル実行委員会	
施 設 名	和歌山市民会館	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	5,165	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	5,165	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オペラ「末摘花」	平成30年7月～8月	出演：井谷有紀・久保美雪ほか 関連事業：子どもオペラ体験ワークショップ	目標値	560人・40人
		小ホール		実績値	454人・39人
2	和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会	平成30年5月～翌年3月	出演：和歌山市交響楽団・市響合唱団・中学校合同合唱団 関連事業：和歌山市交響楽団演奏力向上講習会	目標値	800人・120人
		大ホール		実績値	650人・60人
3	ふるさと魅力発見公演！ 桂枝曾丸のわかやま芸品館	平成31年2月6日～10日	出演：桂枝曾丸ほか 関連事業：埋蔵文化財遺物展示「眠りから目覚めた徳川家の遺産」	目標値	500人
		小ホール・展示室		実績値	603人
4	和歌山演劇大学	平成30年9月～翌年2月	講師：加納朋之・佐藤尚子 発表公演：平成31年2月2日 講演会：演劇と社会 西川信廣	目標値	1000人・50人
		市民ホールほか		実績値	911人・41人
5	バリアフリー対応			目標値	
				実績値	
6	多言語対応			目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2860人・210人
				実績値	2618人・140人

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

社会的役割・・・当初の予定に基づき、幅広い市民が、地域の文化資源を活かした、より質の高い舞台芸術を容易に鑑賞できる機会の提供として、オペラ「末摘花」公演、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会を実施。ふるさとの魅力を活かした、地元出身の落語家による創作落語「ふるさと魅力発見公演！桂枝曾丸のわかやま芸品館」と分野横断的に文化財を活用した紀州徳川家所縁の埋蔵文化財遺物展示との共同事業。子供を対象とした文化事業として、子どもオペラ体験ワークショップを実施。地域の演劇の普及・活性化および演劇を活用した社会参加への取り組みとして、和歌山演劇大学を実施。障害者や在留外国人の社会参加の機会をひらく取り組みとして、点字および英訳チラシ・プログラムの作成。遠隔地の地域の今後の可能性として、IT技術を活用したIoTの試験運用などを実施いたしました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

地域の文化資源の活用、向上・充実に図り、より質の高い舞台芸術に出会う機会の提供は、文化芸術による喜びや感動の享受、豊かな心の育みに寄与し、鑑賞者の増加・育成に役立てられたほか、地域の魅力の発掘・発信など地域の文化的価値の再認識から地域コミュニティの創造・自己再生力を高めます。

視覚障害者や在留外国人等が、公演鑑賞から地域社会への交わりや参加の機会をひらき、さらに新たに生じたステークホルダーとの連携が、当館や地域で開催される催しへの波及等、文化芸術による社会的価値の理解を広げます。地域の演劇の普及・活性化、レベルアップおよび社会参加への取り組みとして、参加者が演劇を軸としたコミュニティづくりのプロセスを経験したことが、実社会においても活かされます。

遠隔地である地域の可能性を探り、将来の実用化に向けたIT技術活用への取り組みを今後も継続いたします。

地域の文化資源を活かし、地域住民自身が地域の持っている魅力や文化的価値を認識することが、まちの発展や元気に繋がります。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

本助成金の支援を受け、6事業（オペラ・オーケストラ・落語・演劇・バリアフリー対応・多言語対応）を実施することにより文化芸術を地域社会と結び普及促進等に繋がりました。

地域の実演芸術団体やステークホルダーとの関係を活かし、地域文化の向上、人々の心豊かで創造的な活動の活性化や文化芸術の普及に大きな役割を果たしました。鑑賞者数が増加傾向にあることは着実に目標達成に向け進捗している結果といえます。事業全体の共通の目標値として、鑑賞者数：2,860人 参加者数：210人に対し、鑑賞者数については2,618人で91%の達成し、参加者数については140人で58%達成いたしました。

子供向け文化事業が少ない状況の改善・将来への文化の継承として実施した、子どもオペラ体験ワークショップにおいては、平成29年度の参加者数が12人、平成30年度は目標人数を40人と設定し、事業内容・広報の見直し等を行い参加者数の増加を目指した結果、39人の参加があり概ね目標を達成いたしました。参加した子供達は実演芸術の迫力・魅力を感じ、参加者アンケートにおいても高い満足度が得られました。

在留外国人や視覚障害者が、公演鑑賞から地域社会への交わりや参加の機会をひらく取り組みとして、英訳および点字チラシ・プログラムを作成し、点字チラシ配布200部、鑑賞者数10人と目標設定し、新たなステークホルダーとの連携など鑑賞者の増加に努めた結果、点字チラシ配布180部、3人の視覚障害者の方に鑑賞いただきました。視覚障害者の平成29年度の鑑賞者数0人から目標達成に向けて一歩踏み出しました。

和歌山演劇大学においては、参加人数が増加傾向にあり、また中高生の参加人数が増加等、若年層にも広がっていることは、着実に地域に演劇が根付き育まれている証であります。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

地域の演劇の普及・活性化、レベルアップおよび演劇を活用した社会参加への取り組みとして実施した和歌山演劇大学においては、プロの俳優・演出家を講師に招き、充実のカリキュラムで約40回の演劇講座を半年間実施し、その成果発表として「真夏の夜の夢」を公演。参加者数が増加・未経験者への指導など、当初の予定を上回る指導時間が必要となり、当初の事業期間内で終了したが翌年度以降の実施に検討課題となりました。期間中に実施した高校演劇部員に対する演劇ワークショップの実施や講演会「～演劇と社会～これからの和歌山と演劇を考える」西川信廣氏を招いて行うなど、事業費・事業期間に見合う充実の内容の事業を行いました。

地域の文化資源を活かし、より質の高い舞台芸術に出会う機会をつくるとして、プロの演出家を招き地域で活動する市民オペラや交響楽団によるオペラ「末摘花」において、お稽古～公演まで、市民オペラや市交響楽団の技術力向上を図れ、舞台美術・照明・衣装の充実など事業費・事業期間に見合うオペラ公演を実施できました。同様に、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会において、市交響楽団の演奏力向上講習会を10回実施し、演奏技術力の向上に努め、より完成度の高い演奏を行うなど事業費・事業期間に見合う内容の事業を実施できました。

地域の魅力の発掘・発信、地域コミュニティの創造と再生を目的に実施した、わかやま芸品館では、地元出身の落語家による新作創作落語のほか、徳川家縁の埋蔵文化財遺物展示を行うなど事業費・事業期間に見合う内容の事業を行いました

障害者や在留外国人等への鑑賞機会の拡大を図り、公演鑑賞から地域社会への交わりや参加の機会をひらく取り組みとして、点字および英訳のチラシ・プログラムの作成を行い、ステークホルダーとの連携を意識し、事業費・事業期間に見合う内容の事業を実施できました。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点として、国民誰もが等しく受けられる権利として文化芸術による喜びや感動の享受に努め、地域住民に対して、オペラ「末摘花」公演、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会を実施し、地域の文化資源（地域で活動する実演芸術団体）を活かした、より質の高い実演芸術の鑑賞機会の提供を行いました。地域の文化資源を活かした舞台芸術を公演することは、地域住民自信が地域の持っている魅力や文化的価値を認識することで、まちの発展・元気につながります。

落語公演わかやま芸品館では、地域コミュニティにとって重要な方言を活かし、地域のローカルニュースを織り交ぜた創作落語や紀州徳川家を題材とした創作落語のほか紀州徳川家所縁の埋蔵文化財遺物展示を開催するなど当財団の埋蔵文化財班との共同事業により、地域の魅力の発掘・発信・伝承・地域コミュニティの創造と再生を通じて地域の発展を支えます。

和歌山演劇大学は、地域住民が演劇を始められる・学べる・続けられる場であり、演劇の素晴らしさを伝えるとともに、演劇を通じて地域住民の社会参加を促す取り組みや演劇を軸にした地域コミュニティづくりを行うなど、社会包摂を推進する役割を担います。また、高校演劇部の課題解決や目標に向けた演劇ワークショップの実施など教育機関との連携を図りました。

点字チラシ・プログラムの作成や英訳チラシ・プログラムの作成を行い、視覚障害者や在留外国人等への鑑賞機会の拡大を図り、公演鑑賞から地域社会への交わりや参加の機会をひらく取り組みを行いました。障害者や在留外国人に対する取り組みから生じたステークホルダー（障害者や国際交流などの各関連団体）との新たな連携が、当館で実施する他の自主事業や地域で開催される催しへの波及効果等、文化芸術による社会的価値の理解を広げます。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

和歌山演劇大学は、中学生から70代まで演劇経験者・未経験者など様々な参加者に対して、東京からプロの俳優・演出家を招いてのトップレベルの演劇指導を実施しました。成果発表として公演した「真夏の夜の夢」には、参加者の友人知人も多く来場し、アンケート結果より、演劇を初めて観た観客の割合、鑑賞満足度が高かった。今まで、劇場に足を運んで演劇を鑑賞しなかった層の掘り起こし効果があり、今後の地域で開催される演劇公演の観客数の増加など活性化につながりました。

卒業生は、地域のアマチュア劇団に入団・ゲスト出演するなど俳優の供給源になるほか、新たなアマチュア劇団の創造を求めます。また、今回、中学生の参加者が6人あり、高校・大学に進学する中で演劇部に入部するなど未来への可能性に繋がりました。

オペラ「末摘花」では、地域で活動する市民オペラ・交響楽団、当館舞台スタッフの育成や技術力向上が図れ、地域の実演芸術に影響を与え、地域全体のレベルアップ効果につながります。日本語字幕付きの全編日本語公演とすることで、オペラ公演を観慣れない観客も物語が分かり楽しめる公演内容とすることで、鑑賞者の増加・育成を図り、地域で催される他の公演の鑑賞者数増加につなげます。

ふるさと魅力発見！わかやま芸品館は、落語公演によるふるさとの魅力を伝えるとともに、落語公演を切っ掛けとした、地域にある他の伝統芸能への波及・発展につながります。

和歌山市交響楽団の更なる演奏技術力向上を目指し実施した演奏力向上講習会は、オーケストラの音色・全体のバランス・音の響きの向上、また個人の音楽表現力の向上などは、より質の高い演奏会となり、地域に対してオーケストラ演奏の魅力を伝え普及効果を得られました。

子どもオペラ体験ワークショップでは、学び・鑑賞・体験のすべてが子供達にとって感動体験となり、オペラの魅力を伝えるとともに、文化の継承の効果も得られました。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

本助成を受け実施した事業において、高い目標を設定したことにより、和歌山市民会館および実演芸術団体共に協力し、一丸となって事業を実施いたしました。当初の目標に達しなかった部分については、事業内容や広報方法、料金設定などを検討・改善し、今後活かして参ります。

P D C Aサイクルを機能的に回して、継続的に改善し、さらに強化していくため、マストアイテムとして、それらを実践・活用できる専門的な人材の育成に取り組んでおります。

和歌山市民会館では、劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援 支援員の派遣による支援を受け、事業企画・立案、運営等の幅広い助言などから着実に地域に貢献する文化事業を展開してまいりました。今後は、より専門的な人材育成を進めるため、事業企画・立案、運営等の経験を計画的に重ね、在籍年数や経験値に応じた事業を担当し、レベルアップを図るとともに、全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修等の受講などにより、スキルアップを図ります。

地域やステークホルダー（実演芸術団体、文化団体、教育機関、子育てや町づくり活性化などのNPO団体、企業）との繋がりなどの関係強化、長期的な信頼を獲得するなど、劇場・音楽堂の役割、和歌山市民会館の趣旨・目的・事業内容、それらが文化に直接関わりのある地域住民にはもちろん、直接関わりのない地域住民に対しても恩恵がり、なくてはならないものだという理解を求め、輪（和）を広げます。

自治体予算が厳しい状況は、公立文化施設など多くの劇場・音楽堂等も抱えている問題であり、和歌山市民会館においては、自治体予算0円の状況が続く中、財団独自に収益をあげ、文化事業等の予算を計上しております。将来の事業予算の確保・強化のため特定資産などの活用を視野に入れ、文化事業予算の強化に取り組みます。